

会 議 録

会議名	平成 26 年度 第 1 回 丸亀市行政評価委員会
開催日時	平成 26 年 5 月 9 日（金）午前 10：00～12：15
開催場所	丸亀市役所 本館 2 階第 3 会議室
出席者	<p>（出席委員）</p> <p style="text-align: center;">岡本 恵子 金 永子 黒田 英津子 日野 明世 森 茂 石原 茂 仁科 清 早馬 倫代</p> <p>（説明のために出席した者）</p> <p style="text-align: center;">市長公室長 山田 哲也 政策課長 小山 隆史 政策課副課長 渡辺 研介 政策課担当長 富士川 貴 政策課主査 真鍋 裕章</p>
議 題	<p>1. 平成 25 年度外部評価結果への対応について</p> <p>2. 平成 26 年度行政評価について</p> <p>3. その他</p>
傍聴者	3 名
発言者	議事の概要及び発言の要旨
小山政策課長	<p>ただ今より、平成 26 年度第 1 回の丸亀市行政評価委員会を開会いたします。本日は、お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。</p> <p>昨年に引き続き、外部評価をお願いすることとなりますが、事務局においては、4 月の組織改正により、政策課が企画財政部から市長公室に移りましたので、山田市長公室長のもと本委員会の事務を行うこととなりました。</p> <p>市長公室長より、一言ごあいさつを申し上げます。</p>
山田市長公室長	<p>おはようございます。本日は、お忙しい中ご出席いただき、また、昨年度は、多様な観点から貴重なご意見をいただきありがとうございます。</p> <p>行政において、事務事業を進めるにあたりましては、計画、実行、評価、改善のサイクルの中で、特に評価をどう改善に結び付けるかが大切であります。</p> <p>本委員会の継続的な評価を予算や事務改善に生かすことはもとより、職員の改善意識を高めることにも繋げることで、一層、市政全般の改善を進めたいと考えております。</p> <p>また、市長からは、「市民からの意見聴取や市民への情報発信が形式的になってはいけない、市民とのやりとりにおいては、事業実施にどう生かすかを常に留意しておかなければならない。」との指示を受けております。</p> <p>本委員会の意見につきましても、より市政に反映されるよう努めてまいりますので、本年度も忌憚のないご意見をお願いいたします。</p>
小山政策課長	<p>続きまして、事務局職員の自己紹介をします。</p>

	<p><出席職員、自己紹介></p>
<p>小山政策課長</p>	<p>議事に入ります前に、本日の配布資料の確認をお願いします。</p>
	<p><資料確認></p>
<p>小山政策課長</p>	<p>それでは、以後の進行につきましては、会長に議長をお願いします。</p>
<p>金会長</p>	<p>昨年から期間が空きましたので、手探りで思い出しながら進めたいと思います。昨年に引き続き、皆様のご協力をお願いします。</p> <p>では、議事に入ります前に、本日8名の委員全員のご出席をいただいておりますので、丸亀市附属機関設置条例の規定に基づき、会議が有効に成立していることをご報告しておきます。</p> <p>次第に従いまして、「議事の1 平成25年度外部評価結果への対応」について事務局の説明をお願いします。</p>
<p>政策課真鍋</p>	<p><資料に基づき説明></p>
<p>金会長</p>	<p>事務局からの説明について、ご意見がありましたらお願いします。</p> <p>まずは、「1. コミュニティバス・生活バス路線等運行維持費」から順にお願いします。</p>
<p>小山政策課長</p>	<p>本日いただいた意見については、担当課に伝えますので、よろしくをお願いします。</p>
<p>岡本委員</p>	<p>昨年度からの改善が見られず、本委員会で提言した「未利用者を対象とした意識調査」も取り入れられていません。意見の反映が不十分のように感じました。</p>
<p>日野委員</p>	<p>本委員会の評価の趣旨からずらした、取り繕った回答をしていることが垣間見られます。評価の趣旨を十分に理解し、向き合う姿勢が必要と思います。</p> <p>もう1点、利用者は、年々増加しているようですが、その要因は分析できていますか。要因や背景を把握できないと、今後の展開に繋がらないと思いますので、そういった取組にも力を入れて欲しい。</p>
<p>石原委員</p>	<p>例えば、「検討する」という表現を使うときに、どのように、どこまで検討するのかなど、もっと詳しく表現する必要があると思います。</p>

金会長	<p>評価に対する市の考えについては、全体的に少し説明が足りないように感じます。もっと丁寧な説明を心がけて欲しいと思います。</p> <p>他にないようですので、次に「2. 自治会振興費」について、お願いします。</p>
岡本委員	<p>単位自治会の補助金については、使途や効果を把握しておらず、漫然と支出している感が否めないため、「廃止も含めたあり方の見直し」と評価しましたが、市の考えは、「聞き取り等による明確化に努める」となっており、支出方法が適切か否かの見直しはなされていないようです。補助金の見直しという意味では、きちんとできていないのではないですか。</p>
小山政策課長	<p>市の要綱に則って支出しており、その要綱では、使途の報告は求めていません。そういったことを踏まえて、担当課が使途を把握するために改善策を講じようとしているものと捉えています。</p>
岡本委員	<p>要綱に沿った支出は行われているのかもしれませんが、そういった税金の使い方は本当に正しいのか。それが昨年度の評価の趣旨です。いくら小さな団体でも、額が小さかろうとも、市から補助金をいただくにあたっては申請書を出し、使った後は決算等を付けた報告書を提出します。そうすることで、税金を使うことへの納得感が得られるのだと思います。</p> <p>そういった点での見直しできていないのは、政策課から担当課にきちんと評価の趣旨が伝わっていないのではないですか。</p>
日野委員	<p>市からの補助金は、必要などころに、必要な手順に沿って渡すべきという議論の意図が、減額や廃止ありきのように誤って受け取られたように感じます。</p> <p>例えば、市民活動で補助金をもらおうとすると、書類の提出だけでなく、金額の積算や活動計画、活動報告に至るまで本当に面倒な手続きが必要です。しかし、単位自治会は、1世帯300円で使途の報告も要せずに補助金が来る。これでは、不平等と感じざるを得ません。</p>
小山政策課長	<p>政策課の意図の伝達や所管課とのやり取りにも不十分な面があったと思いますので、今後の検討課題とさせていただきたいと思います。</p>
金会長	<p>「2. 自治会振興事業費」については、ここまでとして、次に移ります。</p>
岡本委員	<p>「4. 小中一貫教育推進事業費」については、予算が増えていますが、他自治体と比べて講師の賃金が低く、集まりにくいという話との関連でしょうか。</p>
政策課真鍋	<p>講師賃金を見直し、単価を上げたことによる予算の増額です。</p>

金会長	市の考えを見ても、本委員会の評価や意見をどう受け止められたのか分かりません。
小山政策課長	議論はしましたが、教育委員会としては、効果が表れつつあり、続けていきたいということでした。
黒田委員	ここまでを通して、全体的な感想になりますが、予算の付け替えなど、見れば見るほど関連する事業が多くあり、1つの事業を切り出すのではなく、周辺の事業も含めた全体的な視点からの考察が必要だと感じました。今年度の評価には生かしたいと思います。
岡本委員	その予算の付け替えの中には、行政評価によって、じっくりと中身を見直したことにより、より適切な予算組みにできたものもあり、それは、事業ごとに評価した成果と感じます。 そのように、改善が進んでいる部署もあれば、意図を汲み取れていない部署もあります。評価を改善に繋げることは政策課の役割と思いますので、評価のための評価で終わることのないよう、よろしくお願いします。
日野委員	資料の書きぶりにしても、部署ごとの差が感じられます。政策課が全体的な視点からの説明を加えることも必要と思います。
金会長	全体的なご意見もいただいたところで、残りの事業について、何かありませんか。
岡本委員	「6. 在宅老人福祉事業費」について、担当課に伝えて欲しいのですが、おむつ購入助成事業は、ぜひとも、地域の独居老人の状況に詳しい民生委員に周知説明をしておいてください。 また、「9. 防災費」については、評価後に防災アドバイザーが地域の防災活動に参加している報道を見ました。本委員会の意見を受け止めてくれたようで、ありがたく思います。
金会長	他にないようなので、議事の1について終わります。事務局に対する意見も出しましたが、出た意見については、担当課にも伝えておいてください。 それでは、引き続き、議事の2「平成26年度行政評価について」に進みます。事務局の説明をお願いします。
政策課真鍋	<資料に基づき説明>
金会長	事務局の説明について、ご意見はありませんか。

岡本委員	<p>評価対象事業についてですが、毎年度、予算案大綱に重点事業が掲載されています。その評価がなされていないようなので、本年度は、平成 25 年度予算大綱にある 12 の重点事業について評価してはいかがでしょうか。</p>
山田市長公室長	<p>その年の目玉事業なので、評価対象としてはよいと思いますが、ハード事業のような評価しにくい事業も含まれています。</p>
仁科委員	<p>ハード事業については、すでに動いている以上、どのような評価をしてよいのか難しいと思います。</p>
岡本委員	<p>それも含めてすべて市民サービスに繋がっている事業です。また、これらの重点事業は、総合計画後期基本計画の 3 つの重点課題にぶら下がっています。行政評価は、総合計画の進行管理、P D C A サイクルに資するものですので、重点事業への取組について評価を行うことは、総合計画を進めるためにも必要だと思います。</p>
小山政策課長	<p>内部評価では、全事務事業評価と施策評価を行っていますので、その中での評価はされていますが、重点事業としてどうかといった観点からの評価はなされていません。</p>
日野委員	<p>重点の 12 事業を含めた 30 事業程度を抽出して、その中から 10 事業程度を選定してはどうですか。</p>
金会長	<p>事務局とも総合計画後期基本計画をベースとした評価を考えていましたので、今の意見は面白いと思います。あと、先ほど黒田委員から指摘があった周辺事業も含めた広い視点から評価をすることについては、昨年度の反省点として反映したいのですが、いかがでしょうか。</p>
政策課真鍋	<p>事務局として 1 つの案ですが、総合計画後期基本計画の 3 つの重点課題には、具体的な取り組み事項が設定されており、50 程度あります。ここには岡本委員の言う予算大綱の重点事業が含まれますし、1 つの事項にいくつかの予算事業がぶら下がりますので、黒田委員の言う広い視点からの評価も可能になるかと思えます。これらから 10 項目程度を選定して、評価してはいかがでしょうか。</p>
小山政策課長	<p>このようにした場合、昨年度と評価の単位が変わることになります。また、評価の手法を変える必要が生じるかもしれません。そのあたりも含めて議論していただきたいと思えます。</p>

黒田委員	その点は、臨機応変に対応していけばよいと思います。評価にそぐわない事業や評価手法については、その都度、判断して変えていけるとと思います。
岡本委員	重点課題の中身を明らかにすることも大切だと思いますので、まずは、資料を作ってみて、皆さんで決めていけばよいと思います。
小山政策課長	<p>それでは、会長とも相談しながら資料をまとめた上で、各委員にはメールで資料を送らせていただきます。次回7月中旬に予定している第2回会議で評価対象の選定ができるよう、その間も作業を進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>あと、日程については、昨年度より1ヵ月半程度前倒しになりますが、よろしいでしょうか。</p> <p><異議なし></p>
金会長	<p>それでは、議事の2について終わります。最後に、議事の3「その他」ですが、事務局から何かありますか。</p> <p>特にないようですので、以上で本日の会議は終了します。お疲れ様でした。</p>